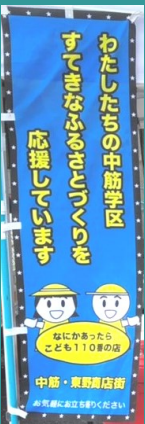


どんな商店街？

中筋東野商店街は、中筋東野エリアの広範囲の住宅街に点在する商店で結成しています。ストリートに沿った商店街ではないけれど、「面」

で地域を支える商店街でありたいと考えています。

「こども110番の店」として子どもたちの見守りや、地域団体と一緒に防犯パレードをするなど、コミュニティの一員として、活発に活動しています。



夏まつりの夜店が災害時の炊出し訓練に！

中筋東野商店街

毎年8月には中筋小学校グラウンドで、商店街主催の夏まつりを開催し、地域の子供たちとその家族を中心に、思い出を提供し続け、夏休みに帰って来られる場を造ってきました。また、商店街にとっても夏まつりが地域とのつながりの場でもありました。

夏まつりは、商店主が中心となって、ステージ、福引き大抽選会、夜店での飲食販売を行い、盛り上げてきました。夜店のメニューは、焼きそば、やきとり、はし巻、いか焼き、フライドポテトなど、いろいろ取り揃えています。長年継続してまつりを開催してきた経験から、特に夜店の運営には自信がっていました。



第34回夏まつり(H30.8.19)

地域の皆さんに身近に感じてもらえて、愛されるお店を目指して頑張っている、一歩店の外に出ると、どのお店の誰かわかってもらえないかもしれません。夏まつりの他に、安佐南区民まつりや東野公民館まつりへも出店していますが、商店街としての発信力が不足しているのではという心配がありました。

■夜店で培った経験を災害時にも役立てたい！

近年、「地震や大雨などの自然災害は、必ず来るものだと思って準備しておくべき」と言われていたことや、東日本大震災が起きた時に炊出しで食を提供していた仮設商店街の活躍を見ていて、夏まつりの夜店の経験と災害への備えを融合する妙案に繋がりました。

災害時に炊出しで地域をサポート 頼りになる商店街になろう！

例年、夜店に使用する道具をレンタルしていましたが、テントやガスコンロ、調理器具、机などを商店街が常備しておけば、発災後速やかに対応できます。

そこで、平成25年度から「広島市商店街活性化事業費補助金」を活用し、夜店に必要な道具の購入に充てました。商店



街の発信力不足の問題も、商店街のジャンパーを作製して着ることで、アピールしていくことになりました。

その翌年、8.20広島豪雨災害が起きました。中筋東野地域は被災しなかったものの、夏まつりは中止にしました。商店街は義援金を募るため、何度か会員店舗の店先に夜店の道具を出して焼きそばを焼き、売上げの一部を寄付しました。

まつり等で道具を使うたびに、災害時の炊出し練習になり、会員は益々熟練していきます。商店街ジャンパーを着たメンバーが地域の盛り上げ役と災害時の頼もしい存在としてアピールし続けています。



■地域とのつながりが商店街の強み

中筋東野商店街は、会員にまとまりがあり、若手会員が活発に活動しており、地域住民や地域団体との関係が良いことが強みです。

夏まつりは地域団体の協力を得て開催していますが、活動を通じて個々のお店を知ってもらえたことで、地域団体が開催する行事の準備物を商店街のお店で購入するようになるなど、お互い様の良い

関係ができてきました。

こうした地域との良好な関係や、商店街の地域貢献の取組をお知らせしながら、商店街への会員勧誘を地道に進めていると、趣旨や活動に共感して少しずつ仲間が増えつつあります。

これからも新たな仲間を求めて、声掛けやPRを継続的に進めていきたいと励んでいます。